

関西学院大学 スカイセミナー

Vol 56 死生学



生きる意味を問い直す スピリチュアリティ

「何のために生きるのか。健康な時、人生に満足している時、私たちはこのような問いかけを発するとは少ない。しかし、病や障害を負うたり愛する人を失ふ時、また大きな困難に出会った時、この問いかけは私たちの心を大きく占めるものとなる。」

私自身、20年ほど前、突然全身麻痺の病になり死に直面する経験をした。その時、心の奥底からわきあがってきたのは、私の人生は何だったのだろう、という問いかけだった。命を取りとめ、主治医から「一生寝たきり」と宣告された時、心を占めたのは、こんな私に生きる意味があるのか、という問いかけだった。「は死に直面してもつに生きるのか」に直面しての問いかけ。し

かしのうちは同じところから葬せられ、人間存在の根源にかかわる問いかけである。

何のために生きるのか　これは、生まれ死ぬ存在としての人間に与えられた課題である。

死生学は死を含めてどう生きるか、命をどうとらえるかを考える。そして今、死生学の中で最も注目されている概念のつが、スリチアリティ^{スリチアリティ}である。生きることに主観的意味を与え、人間存在の根源を支えるものと理解される。身体機能が低下し寝たきりになっても、人生を振り返り感謝して亡くなる人がいる。逆に、健康に見える人が、自分自身の存在そのものに苦しみ、命を絶つこともある。人の喜びや苦しみを理解しようとするとき、スリチアリティを

無視するとはできない。世界保健機関WHOでも、現在の健康の定義「身体的・精神的・社会的健康」に「マテリアルな健康を加える」とを検討している。

苦しむ状況であるほど生きる意味を
見出すのは難しい。その答えは誰かが押し付
けるものでない。生きる意味はその人自身が
見出して初めてその人にとって真実なものにな
る。では人は孤独の中でその意味を探さなけれ
ばならぬのだろうか。

何もできなくなた私をそのまま受け止めてくれる存在、一緒に泣いてくれる存在、あなたがいないだけで嬉しいのだといってくれる存在。このまうな人たちとの関わりの中で私はたとえ身体が動かなくても生きててよいのだと思えるようになった。ありのままを受け容れてくれる「関係性」は大きな助けになる。

この關係性は、人間關係だけを意味するのではない。人間の限界そのものに向き合ふとき、その限界を超える關係性が重要になる。死はまさにその時である。私たちが例外なく迎へざるを得ない。死の時に何を何かに委ねることができれば、それは大きな安らぎだろう。命を与へてくれた大いなるものに、自ら信じる神に、自然や宇宙の中に、また先に逝つた愛する人との關係においても同じである。「天国で見守つてくれる」「また会える」といつ人間の限界を超える關係性とは、故人との關係に新たな意味を与へてくれる。

關係性は、人間のスリキチアを、誰いかにけに
答えを見出す鍵ともいえる。今こそたましいの
痛み、心に心を傾け、生きる意味を問ひ直すことが
必要な時代ではないだろうか。



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 人間福祉学部(2008年4月開設)

神戸三田キャンパス(KSC)
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
総合政策学部 理工学部

神子を生みだす 新聞社勤務中突然全盲。麻痺の病に倒れる。開成大学（現・関西学院大学）社会部（現）に入学。1994年大学院修了課程修了後、ワシントン・留學生としてWashington University (St. Louis) 博士課程に入学。99年、がんで死ぬ。00年、博士の襲いにたいして研究し、博士論文取得。00年より開成大学社会学部、死生学を担当。死生学にのける「OL」デパートエナジーが「OL」世界保健機関(WHO)日本人「OL」マリア・P.H.D.開発兵庫県。命の大切さを実感させる教育「OL」構想にむかわる。08年4月から新設の人間福祉学部人間科学科に移す予定。

藤井 美和
関西学院大学
社会学部准教授、
死生学・スピリチュアリテイ
研究センター長